



株式会社三森  
代表取締役社長 森 博昭さん



### 『ゼロから作る』

三木町は町制65周年を迎えますが、そんな三木町と同年の会社があります。その名も『三森』。名前も三木となんだか似ている。気になる…。というわけで、株式会社三森に伺いました。三森はFAライン(自動化機械)の製造を行う会社で、設計から据付までを行います。「大手は試作品を重ねるのに対して、うちは1発勝負で行います。それは技術と経験の賜物です。経験豊富な従業員が多いのがわが社の強みです。」そう語るのは森博昭社長。そのおかげでお客様の『ここを変えてほしい!』といった細かい要望にまで応えられるそうです。森社長は、「今までの経験と技術を生かして、お客さんが使いやすい、発注しやすい機械を作っていきたいです。そのためにもUターンやIターンの人など、多くの人に三木町には”就職口”があることを広めて、良い人材を確保したいです。」と今後の展望を語ってくださいました。



高松グランドカントリー株式会社  
(高松グランドカントリークラブ)  
支配人 豊永 優さん

### 『世代を超えたコミュニケーションスポーツ』

三木町の南にある名門『高松グランドカントリークラブ』は、氷上コースと鹿庭コース2コースからなる、県内で唯一36ホールあるゴルフ場。国内のみならず海外からも多くの方が訪れています。「うちのゴルフ場の強みは、整備の行き届いたコースです。特にグリーンには力と愛情を入れています。」そう語るの、お茶目で貫禄のある支配人の豊永さん。近年においては、若い世代を中心としてゴルフ離れが進んでおり、またゴルフをする人の年齢層も上がってゴルフにも高齢化の波が来ています。逆を言えば、ゴルフはどの年齢でもできるスポーツであり、遊びの要素もあるので、コミュニケーションツールとしては最高です。豊永さんは、「より多くの人たちにゴルフの楽しさを知ってもらうためにも、ゴルフ初心者や若い世代の人たち、女性が来やすいようなゴルフ場にしていきます。」とグリーンを見つめながら語ってくれました。



株式会社コート  
代表取締役社長 堀 具王さん

### 『香川の道路標識は全てコート製』

みなさんが日常的に目にしている道路標識。それらを作っている会社が、実は三木町にあるんです! その名も「株式会社コート」。今回は株式会社コートの堀社長にお話を伺いました。道路標識の製造と工事がメインのコートですが、驚くべきはその業界シェア率。四国では80%、香川においてはなんと100%、また関西圏からも工事を受注しています。そのため、四国4県や大阪、東京などにも営業所があり、従業員数は70名ほどに上ります。「弊社は、『原板製作から完成まで』を自社で行っています。そのため、急な仕事にも対応できる。そこが私たちの強みです。」他社から原板を購入して、シート貼付けだけを行う企業が多い中、コートでは原板製作からシート貼付けまで一貫して行っているそうです。「官公庁に納品できるだけの品質の製品を製造してきました。これらの作業で培ってきた品質や技術を活かして、交通安全以外の製品にも取り組んでいきたいです。」



株式会社マルシン  
代表取締役 吉田 宏樹さん

### 『“安心安全”な商品づくり』

「なんでもある時代ですから、お土産品にも付加価値をつけたり刷新したり、手にとってもらえる工夫がより重要になってきています。」と語るの、吉田社長。マルシンは四国内の空港や駅、高速のサービスエリアなどに土産品を卸し最近では菓子の製造も始めています。その種類は、食品だけで約700種類、そのうちオリジナル商品が7割を占めています。毎月商品開発をし、更新し続けるなど、新鮮さがなくならないよう努力しているそうです。また、町内のいちご農家と「農商工連携」して商品を作ったり、小麦は「さぬきの夢」を使うなど、そこには「安心安全な商品を提供したい」という社長の強い思いもあるそうです。「地元の食材を使うなどして、地元を押し出したいと思っています。そうすることで、商品が”安心安全”なものだと感じてもらいたい。四国近郊にとどまらず、都市圏をはじめ各地への販路拡大にも力を入れています。」



有限会社 藍色工房  
代表取締役 坂東 未来さん

### 『愛から藍ができた』

「藍は昔から薬草として飲まれるくらい、薬用効果があるとされています。また、『藍染めは“着る薬”』とも言われます。」そう藍について語ってくれたのは、坂東未来さん。坂東さんが社長を務める「有限会社 藍色工房」は、ご主人を含めた10名の従業員の方々が働いており、肌質や季節で使い分けられる数種類の藍の手作りせっけんや藍染め製品など様々な製品の製造・販売を行っています。「突然スイス人が来店したり、中国人がSNSで見た製品を欲しいと言っていると名古屋のホテルから電話が来たり、と外国人の方々からも人気が出ています。『昔からの日本の良いものを使いたい』という声に応えられるよう、今後も頑張っていきたい。」そう語る坂東さんは、三木町に多くいるいちご農家さんと連携して、背の高いイチゴの栽培棚の半分くらいの位置に藍を植え、地元三木町で藍を多く育てられるような、新しく面白い計画もしているそうです。



協和化学工業株式会社  
取締役医薬製剤事業所長 青木 恭二さん

### 『真に社会に貢献できる製品づくりを、独自の技術で究めます』

協和化学工業は非ハロゲン系の樹脂安定剤や難燃剤などの工業用製品、制酸剤や樹脂性賦形剤などの医薬・食添用製品、更には医療用医薬品などの製造・販売を行っています。坂出本社の他に、屋島工場や東京営業所、そして三木町にも医薬製剤事業所があります。酸化マグネシウム製剤シェアNO.1のリーディングカンパニーとして三木町の事業所では医療用医薬品を中心に製造販売を行っています。平成29年には年間約20億錠以上の錠剤がここ三木町から出荷されました。「今後は地域との関わりをより大切にしていきたいと思っています。また会社もどんどんと発展させていきたいです。地元の人を始めとして、より能力のある、やる気のある人材が来てくれたらと思います。地元三木町出身の学生など若者も大歓迎です。」そう青木事業所長は今後の展望を熱く語ってくれました。